

主な内容

特集 郷土博物館	1・2面
東京ベイ浦安シティマラソン大会	3面
市立幼稚園入園児募集 ほか	8面

発行/浦安市
 所在/〒279-8501 千葉県浦安市
 猫実一丁目1番1号
 編集/市長公室広聴広報課
 ☎047-351-1111(代表)
<http://www.city.urayasu.chiba.jp>

市の人口と世帯 人口=163,552人(-185) 男=81,468人(-129) 女=82,084人(-56) 世帯数=72,286世帯(-96) 平成23年9月末現在()は前月比



郷土博物館10周年

博物館へ行こう

郷土博物館は、今年度開館10周年を迎えました。開館以来、入館者数は毎年10万人を超え、これまでに延べ約121万人の皆さんが訪れています。これは、県内の市町村立博物館としては類を見ない数字で、現在も幅広い年齢層の方が利用しています。

今回は、郷土博物館の魅力を再発見してもらえよう、郷土博物館をあらためて紹介します。

【問】郷土博物館 ☎305・4300

特集は2ページに続く

始動を
見られる博物館は
全国でも
ここだけ

焼玉エンジン

インタビュー

郷土博物館の焼玉エンジンの機関士である鈴木清蔵さんにお話を伺いました。

焼玉エンジンの構造

焼玉エンジンは、壊れてしまった場合、壊れた部分だけを修理しても動くようにはなりません。全体がバランスよく働かないと動かないため、修理する時も全体を調節する必要があります。そのため、エンジンの仕組みを根本からわかっていないと修理することができません。

青春時代の努力が今につながる

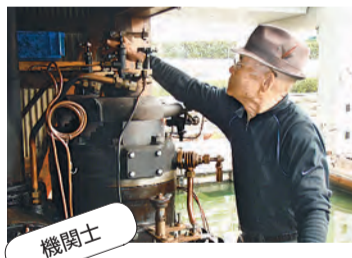
私は、漁師になった17歳から、船のエンジンに関わってきました。当時、九十九里に住んでいたのですが、そこには使い古したエンジンしかなく、いつも修理しながら使っていました。焼玉エンジンは、機関士の整備の仕方や使い方によって個性が出るので、今の自動車の修理などとは異なり、機関士がエンジンの修理方法を具体的に工場に指示しなければなりません。そのため、そのつど、エンジンのことを先輩に聞いたり、勉強したりしました。

今思えば、そのときに一生懸命、エンジンについて学んだことが、現在の焼玉エンジンの始動の一助につながったのだと思います。

その後、昭和22年から浦安に住み、焼玉エンジンの船の機関士として働きました。現在、郷土博物館で焼玉エンジンを始動するときは、そのころのことを思い出し、懐かしい気持ちになります。

焼玉エンジンを見てみてください

ボタン1つ押せば動くような機械ではなく、機械全体を調節して動く、この昔ながらの焼玉エンジンを一度は見て、エンジン音を聞いてみてください。かつて浦安に鳴り響いていた音を聞くことで、当時の浦安のことに興味を持ってもらえるとうれしいです。



機関士 鈴木清蔵さん



昭和30年代の吉岡丸

屋外展示場「うらやすの町」に展示されている焼玉エンジンは、40年近くも水に浸かっていたものを、平成9年11月に江戸川から引き上げたものです。これは、昭和33年に製造されたもので、「吉岡丸」のエンジンとして活躍していました。かつて浦安の町に鳴り響いていたエンジンの音を、もう一度復活させたいという希望を胸に、平成10年2月22日から修復作業が始まりました。欠けていたり、使いものにならない部品のひとつひとつをつなぎ合わせるなど、その修復はたいへんな作業でした。

平成13年4月1日、郷土博物館の開館日に、焼玉エンジンは、製造されてから43年ぶりに復活しました。全国の博物館でも、焼玉エンジンの始動を見ることができるとは、浦安市の郷土博物館だけです。毎週土曜日午後1時30分に始動しています。

希望を胸に

燃焼室にある焼玉と呼ばれる部分を加熱して、燃料に着火させるエンジンのことです。日本では明治時代末期に登場し、第二次世界大戦前までは、大型漁船のエンジンの主流を占めていました。浦安では、大正時代末期から焼玉エンジンのついた船が確認されています。大量に生産された焼玉エンジンも、現在ではほとんど姿を消し、国内では数例しか現存していません。

↓焼玉エンジン





テーマ展示室

海とともに



展示室内では、皆さんを浦安の海に案内します。干潟の豊かさや大切さをジオラマ(模型)や水槽などで見ることができます。また、浦安の漁業について、映像や実際に使われた漁具を用いて紹介します。

浦安亭

浦安亭は、昭和30年代まで堀江の一番通り(現フラワー通り)近くに実際にあった寄席(大衆芸能の演芸場)です。明治43年に建てられ、浪花節や講談など、いろいろな出し物が演じられました。この浦安亭を模したコーナーでは、講師が浦安の歴史を知る上で欠かすことのできない2つの出来事を講談調で紹介しています。



船の展示室

海を駆ける

浦安の海で活躍した数種類の木造船やエンジン、それらの船を製造するのに使用した船大工道具などを展示しています。

また、マキ船やベカ舟、打瀬船など、漁法によって使い分けられた船を見ることができます。ほかに、ベカ舟製造の実演を見たり、船釘打ちなどの体験をしたりできます。



屋外展示場

浦安のまち

屋外展示場「浦安のまち」は、終戦、そしてキティ台風の被害から復興し、浦安が漁師町として最も活気に満ちあふれていた昭和27年ごろの浦安を再現しています。

浦安のまちに足を踏み入ると真っ先に目に入る船宿は、旧江戸川沿いの船宿をイメージして建てられました。船宿には、いつももやいの会(下記参照)の皆さんがいて、かつての漁師町・浦安のことや当時のくらしのことなどについて教えてくれます。



貝がらの道

街中には貝がらがまかれ、歩くと碎けてシャリシャリ音を立てていました。浦安では、貝のむき場、各家庭などから毎日大量の貝がらが出され、そのほとんどは貝灰工場で石灰や肥料、家畜の飼料に加工されていました。また、貝がらをまくと道路の凹凸が補修され、水はけがよくなる効果もあったので、家のまわりや井戸、水道のまわりなどに貝がらをまいていました。



一番通り

フラワー通りをイメージした通りです。豆腐屋や魚屋、三軒長屋などは、実際にこの通りにあった建物を移築・新築したものです。

ペーゴマやめんこ、輪投げなどの昔遊びの体験や、駄菓子屋での買い物などを楽しむことができます。



もやいの会

郷土博物館をオープンする際には、ボランティアもやいの会のメンバーとなる方々は舟や網などの展示物を作製したり、縁台などの施設の一部を作るなどしました。今では郷土博物館で、ベカ舟乗船体験指導や海苔すき体験などを行い、市民の皆さんが主体的に博物館活動に取り組めるように活動し郷土博物館には不可欠な存在です。現在、会員は約200人います。

会の名称は、船と岸にある丸太を結ぶことを、「船をもやう」と言ったことに由来します。「もやいの会」は、市民の皆さんとふるさと浦安を結んでいきたいという願いを込めてつけられた名前です。

インタビュー

もやいの会

宇田川 彰さん

郷土博物館では、主に展示物や舟づくり、舟の修理をしています。この10年の間に、浦安の歴史などに興味を持ってくださる方が、こどもだけでなく大人にも増えていることがうれしいです。また、舟の模型の作り方をこどもたちに教えることもあるのですが、できあがって喜ぶ姿を見ることもうれしいです。

郷土博物館では、漁師町・浦安の情緒を味わったり、いろいろなことを体験したりすることができます。市民の皆さんがたくさんきてくれるとうれしいですし、郷土博物館の活動もどんどん活発なものになっていくと思います。これからも伝統のある技術や昔の生活のことなど、皆さんに伝えていきたいと思っています。



あっさり君

郷土博物館
マスコット
キャラクター

10年前に郷土博物館のマスコットキャラクターを募集したところ、4~67歳(当時)の幅広い年齢の市民の皆さんから数多くの応募がありました。総数200通のなかから、当時中学生だった東瀬戸あゆみさんの作品「あっさり君」が選ばれました。あさりとベカ舟の組み合わせで、かつての漁師町・浦安を表現しています。はちまきは、浦安の男性の日常のスタイルでした。あっさり君は、これからも博物館の顔として活躍していきます。

あっさり君の生みの親

東瀬戸あゆみさん

インタビュー

中学校に貼ってあったポスターでキャラクター募集のを知り、どういキャラクターがよいかしばらく考えていました。授業中に「あさりがベカ舟に乗っていたらすごくかわいい」と思いつき、開いていた教科書にイラストを描いてみたのを今でもよく覚えています。

キャラクターが採用されたときは本当にうれしかったです。今でも中学校の同級生に会うと「あっさり君元気？」と聞かれます。これからも身近なキャラクターとして、皆さんに可愛いがってもらえるとうれしいです。

event

博物館のあゆみ ~おかげさまで10周年

これまでの博物館の活動を紹介しながら、写真を中心とした企画展を開催します。

時 11月5日(土)~12月4日(日)

所 郷土博物館